

ひめまつ

64



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次 (第六十四号)

表紙……深谷夏乃 題字……石川木魚 写真……写真部・編集委員会
 校歌 生活目標 裏表紙……黒川真希

グラフ 「学園の四季」

随想 占領下の沖縄渡航記

論説 「オリオン通りと水掛菜」

——成熟化社会を生きる——

特集1

宇都宮共和大学 教育厚生棟が完成！

特集2

生活教養科 伝統の技を未来へ

特集3

「とき地産地消の目」 けんちようの愛ふれあい直売所への出店

明るい生徒会を目指して(新生徒会長に就任して)

順風満帆の舵取りにて(任期を終えて思うこと)

*心に強く響くもの(校内読書感想文コンクール入賞者一覽・上位入賞作品)

【第三学年の部】 校長賞

- 第一位 司馬遼太郎・著『最後の将軍』を読んで 一組 和田悠介
- 第二位 飯島夏樹・著『ガンに生かされて』を読んで 三組 阿久津更紗
- 第三位 ルーシー・モンメリ・著/村岡花子・訳『赤毛のアン』を読んで 六組 初谷菜摘

【第二学年の部】 校長賞

- 第一位 伊坂幸太郎・著『終末のフール』を読んで 一組 戸次はるな
- 第二位 重松 清・著『あおげば尊し』を読んで 一組 大円志織
- 第三位 宮下肇・著『地球を殺そうとしている私たち』を読んで 七組 長嶋優紀

【第一学年の部】 校長賞

- 第一位 芥川龍之介・著『地獄変』を読んで 三組 中山莉佳
- 第二位 有島武郎・著『生れ出づる悩み』を読んで 一組 河村拓哉
- 第三位 ジョン・ボイン・著/千葉茂樹・訳『編み物のパジャマの少年』を読んで 三組 寺門郁未

■平成二十一年度 作文関係コンクール等入賞者一覽

□作品集 「各種コンクール入賞作品」

【ねんりんピックとちぎ2009】長寿社会に向けての主張コンクール

優秀賞 必要なこと

【県高校国際理解弁論大会】

第一位 優秀賞・県教育長賞 「脱 傍観者」への切符

【国際ソロフチミスト宇都宮主催・クラブ・ユース・フォーラム】

最優秀賞 価値ある存在として生きる

緑の地球を守る唯一の方法

【随想】(Asse)

木に思う

経験から学んだこと

【流行】について

【現代詩】 高校三年二組(普通科(医歯薬特進コース))

【短歌撰】 高校三年二組(普通科(医歯薬特進コース))

高校三年四組(普通科(国公立特進コース))

高校三年三組(普通科(医歯薬特進コース))

高校三年十組(普通科(進学コース))

二年 七組 鈴木諒子

二年 一組 菱垣裕里

一年 一組 杉山比呂美

一年 一組 河村拓哉

三年 二組 阿部江美子

三年 十七組 伊沢 蘭

三年 二十三組 田島美佳

★あとらんだむ

一年間の反省と、二年生になる抱負

二年間の反省と、最上級生になる抱負

敬老の日の贈り物に、お礼のお手紙をいただきました。
ホット・レターのページ

♪沖縄・東京臨海副都心・那須の旅

- 沖縄で学んだこと
- 沖縄修学旅行
- 一日旅行の思い出
- 「お台場」一日旅行の思い出
- 一日旅行
- 一日旅行について
- 思い出の大洗・アクアワールド
- 一日旅行について
- 一日旅行記、大洗の思い出

旧一年	三組	手塚ももこ
旧一年	七組	赤坂浩史
旧一年	十三組	猪瀬優輝
旧一年	十九組	中尾拓人
旧二年	十一組	齋藤拓人
旧二年	一組	山崎実紅
旧二年	二組	菅田晴輝
旧二年	三組	菅留理
旧二年	十八組	手塚麻衣子
旧二年	二十組	吉永湧紀
旧二年	二十四組	宮田真理

〈声〉 須賀学園 2010 私のベスト・スポット 宇短附

二年	五組	茂呂有加里
二年	八組	塚越悠里・牧岡詩織
二年	四組	荻野日夏望
二年	十三組	鳩山彩香
一年	四組	染谷千晶
一年	四組	小林里実
一年	五組	山本真波
一年	十組	小室友理佳
一年	十四組	松木里佳

須賀学園教育会館
須賀学園教育会館
須賀学園総合体育館

◇わがホームルームの紹介

三年・二年・一年

三年	四組	片岡慎太郎
三年	四組	大西千琴
三年	十三組	岩本賢人

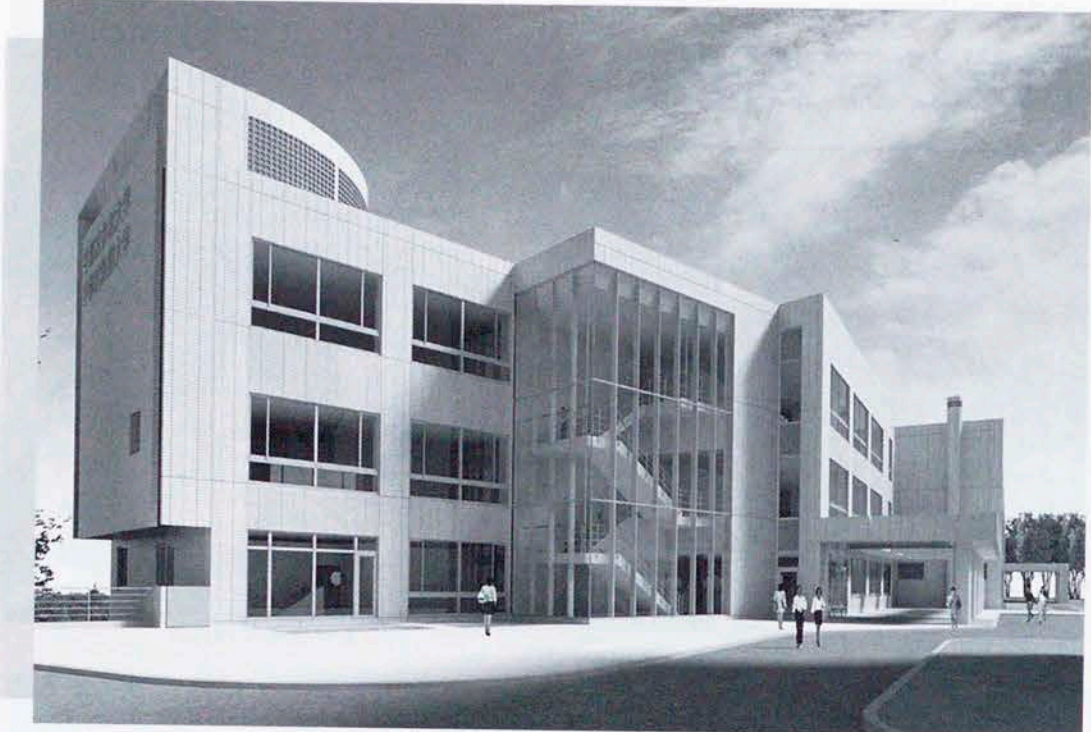
◆委員会・部活動(文化部/運動部)報告

交通安全・風紀・美化/華道・茶道・理科/インターアクト・演劇/囲碁・将棋・服飾手芸・プラスバンド
弓道・女子バレーボール・水泳・卓球・男子サッカー・女子サッカー・新体操・男子ソフトテニス・女子ソフトテニス
柔道・男子バスケット・女子バスケット・剣道・男子バレーボール

★学園告知板

- 悠久の時空を越えて 源氏物語千年紀を経て第43回宇短大祭が華やかに!
- ソフトテニス部の活躍
ハイスクール・ジャパンカップ2009県大会で、男子ソフトテニス部が優勝!全国大会に!
インターハイ、全国大会へ! ソフトテニス女子個人1人が準優勝!ソフトテニス男子個人2人はB.A.S.T.S!
- 男子ソフトテニス部、「トキめき新潟国体」へ出場!
- 囲碁部の活躍
文部科学大臣杯(県予選)団体・準優勝で、囲碁部主将が全国総文祭の県チーム主将に!
県総文祭囲碁大会と県高校囲碁新人戦で、栃木県no.1に!
- 調理科の活躍
本校調理科の卒業生が、ベルギー・ブリュッセルの「味の外交官」公認料理人に!
本校調理科が、「けんちん堂」愛ふれあい直売所(栃木県庁内)に本店!
「創作料理発表会」で、調理科3年生が最優秀賞を受賞、全国大会に!
- 音楽科の活躍
宇短大・高校OG・OBウインドオーケストラが県代表として東関東吹奏楽コンクールへ出場!
音楽科の2年生が、第2回日本ブルガリア国際音楽コンクールで第3位・ブルガリア音楽賞を受賞!

学園の四季



▲須賀学園長坂キャンパス教育厚生棟
宇都宮共和大学子ども生活学部は、長坂キャンパス(宇短大)の新校舎に開設する予定です。

宇短大・高校OG・OBウィンドオーケストラが、



▲「奏思奏堂(そうし そうあい)心をついに」
県代表として東関東吹奏楽コンクールへ出場!



▲宇都宮の伝統工芸品、宮染めの浴衣姿では笑む福田富一知事の等身大パネルが7月17日(金)県庁1階ロビーでお披露目されました。
([下野新聞]7月18日(土)付記事から。)

本校調理科
「けんちょう de 愛ふれあい直売所(栃木県庁内)」で
ファミリーマートと共同開発のおむすびとお弁当を販売!



▲福田富一知事もご来店!

「宮染め」生活教養科 PROJECT!
～宇都宮で江戸時代に始まった伝統的な染物「宮染め」を再現!～

▼宮染めを一般の方々に紹介する本校生徒



*その他
アメリカからロータリー留学生が来校!
高校総体ワイギユアスケート女子の部で、普通科1年生が「銀盤の女王」に!
*生活教養科の活躍
全国きものデザインコンクールで、生活教養科3年生が3年連続入賞!
●平成二十二年度 全国高等学校家庭科技術検定の合格状況

教育実習生、母校の教壇に

公民科	茨城大学	奥村 真衣子
理科(生物)	千葉大学	殿岡 ほむら
体育科	国士舘大学	山本 秀幸
中学・社会科	宇都宮共和大学	橋本 由佳

附属中コーナー

この一年間のおもな活躍・クラス紹介・行事紹介
作品集「各種コンクール入賞作品」 写真で見る中学校生活

宇都宮共和大学・宇都宮短期大学(人間福祉学科)コーナー

◎平成二十二年度生徒会報告

- ◆主な大学合格者数一覧(過去三年間)・就職状況
- ◆編集後記
- ◆校史と校章

須賀学園創立109周年記念平成21年度学校祭を開催!



▲多くの人で賑わう第2グラウンド



生徒会バザーコーナー
(みなさんの協力で、たくさんの品物が集まりました。)



本学園創立109周年を記念した中学・高校合同の学校祭が、創立記念日(11月3日：文化の日)を前にした10月30日(土)と11月1日(日)の2日間にわたり、大勢の中高生や一般のお客様をお迎えして盛大に行われました。

メインの会場となった須賀学園教育会館では、3Fセミナー室での各学科・文化部、系列校の展示と実演。2Fグループ学習室での「第2回学校見学会・オープンキャンパス」と各種展示、1F生徒ホール



▲調理科による販売「クリーム・ブリュレ」



奏~(かなで)
Harmonizee!!
~最高の日を奏でよう~



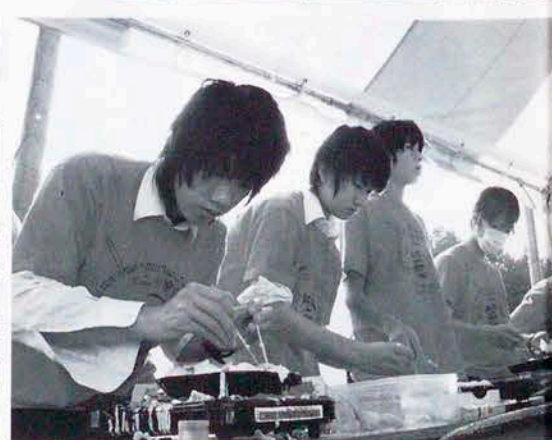
での調理科レストラン。そして、前庭特設ステージでの高校・短大の生徒学生による各種野外コンサートや日本科学未来館提供の水素自動車展示、ファミリーマート「食と環境」・日本栄養給食協会「食育と栄養」展示と生徒会のチャリティバザー。第2グラウンドの調理科フードコート・屋台村など、見所が盛りだくさんの思い出に残る楽しい2日間になりました。



学校祭



▶野外ステージでのコンサート



▲この日のために試行錯誤を繰り返しました。「売れるといいな」

◀学校祭の一番の楽しみは、やっぱり食べること!!

随想

占領下の沖縄渡航記



校長 須賀

あつし 淳

本校の修学旅行も沖縄に行くようになってから四年になります。今年は新型インフルエンザの流行期と重なったため心配しましたが、予定どおり無事実施することができました。

本校の沖縄修学旅行は、ひめゆりの塔の戦跡や世界遺産の首里城、そして琉球村や海洋水族館などの

見学に加えて、グループ別コース選択体験学習も組み込まれて、たいへん有意義な内容となっております。ホテルその他の施設も立派で、生徒の皆さんには満足していただいているようです。

それについても、私が昭和三十年代半ばに、はじめて占領下の沖縄に渡航したときのことを思い出します。当時私は文部省（現在の文部科学省）に勤務していました。沖縄は日本本土と分断され、戦略上の重要拠点として米軍の占領下にありました。しかし沖縄の人たちは本土復帰の念願に燃えて、復帰に備えての勉強が始まっていました。私は琉球大学から招かれて、日本の公務員制度について集中講義をするため沖縄に行ったのです。



平成21年度生徒総会

▲昨年5月28日(木)に開催された生徒総会。国際協力とリサイクル「ステイ生活」を議題とし、積極的な話し合いの場となった。



第43回校内合唱コンクール

▲昨年7月13日(月)～15日(水)の3日間開催された合唱コンクール。各クラスとも練習の成果を発揮しての熱唱!

生徒会

行事あれこれ



▲昨年6月13日(土)開催のスポーツフェスティバルから。各種目とも熱戦が繰り広げられた。

生徒会役員

 副会長 榎本 有希	 副会長 天野 実季	 会長 仲田 涼介
 庶務 高野 沢 さやか	 庶務 鈴木 諒子	 会計 上林 翔太
 議長団 鈴木 菜	 議長団 宮岡 翔	 議長団 清水 奈津美
		 議長団 萩田 めぐみ

そのころは「沖縄に行くには三か月と三時間かかる」といわれていました。もちろん船で行ってもそんなに日数がかかるわけではありません。三か月とは、日本から沖縄に渡航するには事前に米軍のきびしい入国審査があるため、それに三か月かかるという意味です。三時間とは、羽田から那覇までの飛行時間です。独立後間もない当時の日本では、自由に海外に旅行することは許されていませんでした。また、外貨(ドル)の持出しもきびしく制限されていきました。沖縄についても、日本の現職の国家公務員が国立の琉球大学から招かれての渡航さえ特別なパスポートとビザが必要なので、占領下の沖縄の実情がわかります。

七月半ばの暑い日でしたが、プロペラ機からジェット機に代って間もない国際線の空の旅は快適であり、無事那覇空港に着きました。琉球大学は那覇市の首里城の全山を占め、戦火で焦土と化したなかに、大学の建物が点在していました。現在は首里城が復元されて、琉球大学は那覇市の隣の西原町に移っています。

集中講義は数日で終り、大学の皆さんは熱心に聞いてくれました。講義が済んだあと、大学では私を沖縄本島の見学案内してくれました。私が第一番

に行ってみたかったのは、本島南部の日本陸軍最後の司令部があった「摩文仁の丘」でした。牛島軍司令官が自決した断崖の洞窟陣地跡に立って感慨無量でした。その日は風光明媚な名護湾の宿に泊り、すばらしい夕日を眺めることができました。翌日はさらに本島の最北端の辺戸岬まで行き、「為朝伝説」のある淋しい入江も見えました。

このように沖縄本島の南端から北端まで見学することができましたが、現在のように都会化されていない沖縄の原風景に接することができたのは貴重なことでした。本土のお墓とは形が全く異なっている沖縄のお墓は珍しく、亀甲墓といってトーチカ(火点)コンクリート造りの堅固な防御陣地のこと)のような立派で大きなお墓でした。また琉球王朝時代そのままの庶民の服装・髪型をした老婆が道端で洗濯している姿も印象的でした。一方、現在日米間の大きな問題となっている本島中部の普天間飛行場や広大な面積を占める嘉手納基地を金網の外から眺め、緑の芝生のなかの瀟洒な米軍司令部に星条旗がひるがえっている光景は、まるで外国のようでした。

那覇滞在中に、琉球大学では私のために歓迎の宴を設けてくれました。沖縄料理のお膳には、泡盛焼

酎の徳利と、本土ではまだ一般的でなかったココア・コーラの瓶が一本そえられていました。沖縄では泡盛はコーラで割って飲むことになっているようですが、郷土料理のお膳にコーラの瓶は何かそぐわない感じがしたものです。那覇市にまだ洋式のホテルがなかった時代で、簡素な和風旅館に泊まりました。沖縄ではどの家にもヤモリ(トカゲのような爬虫類)が住んでいて、夜になると寝床の真上の天井に何匹も這い出してくて、ときどきキーキーと鳴くにはいささか辟易しました。

一方、米軍幹部将校専用のすばらしい高級クラブが那覇軍港を見下ろす丘の上に立っていて、ハーバービュークラブとかいう施設でした。一般の日本人は入ることはできませんが、琉球大学の学長先生が特別会員になっていたので、一夕私をそこに招待してくれました。戦後の貧しい日本では見たこともないワラジのように大きいビーフステーキが出てきてびっくりしました。ひとくち口に入れたところ全く歯が立たない牛肉には二度びっくりでした。アメリカ人はこのような固いビーフステーキを食べているようでした。

いよいよ那覇を発つて帰るとき、国際通りという繁華街に行ってみました。免税店などもあり、日本

の国内では手に入らない外国製品が並んでいました。しかし乏しい手持ちのドルでは憧れのスイス製の腕時計などはただ眺めるだけで、お土産に名産の黒砂糖の袋を少し買っただけでした。

現在では、琉球ガラスが沖縄土産の人気ナンバーワンだそうです。米軍の兵士が飲んだコーラの空き瓶を溶かしてガラス器をつくるようになったのが琉球ガラスのはじまりだということを最近インターネットで知りました。私が行ったころは琉球ガラスはまだ存在しなかったと思います。あの可愛らしい珍しい形のコーラの瓶も最近では見ることができなくなり、すべて缶ボトルに変わってしまったのは、時代の変遷を感じます。



首里城 守礼の門での生徒たち

論説

「オリオン通りと水掛菜」 — 成熟化社会を生きる —

副校長 須賀英之



中心市街地の衰退と課題

宇都宮市の中心市街地では、この十年間に四つの百貨店（上野、西武、ロビンソン、東急109）が閉店し、最近では、オリオン通りの専門店でもシャッターが閉じたままのところが増えていきます。

宇都宮市では、中心部の交通渋滞や交通事故を減らすために、全国でもいち早く環状道路が完成し、郊外の住宅団地が開発されました。その後、環状線沿いには、大型のショッピングセンター、家電・衣料品店や外食産業が立地する一方、中心部は衰退して、すっかり車社会の都市構造になってしまいました。このため、一世帯当たりの車の保有台数は1.9台もあり、一世帯当たりのガソリン消費量が宇都宮市は、県庁所在地の中で全国第一位となっています。

確かに車は便利なものですし、将来、皆さんが宇都宮で暮らす場合、車なしでは生活できないことも現実です。しかし、体が不自由な人やお年寄りの生活はどうでしょうか。車が運転できなくなった場合、

買い物や病院に行くためには、歩くか路線バスに乗るしかありません。最近、オリオンスクエアや二荒山神社の近くに高層マンションが建設され、郊外の一戸建ての家を処分して、中心部の集合住宅に住み替える中高年層が増えていっているのも、このためでしょう。

コンパクトシティへの取り組み

青森市など地方の中核都市では、「コンパクトシティ」と称して、これまで郊外に延びてきた住宅や商業の開発を抑制して、市役所や図書館、ホールなど公共施設を中心市街地に集めていこう、という動きが活発になっています。少子高齢社会・人口減少の時代に備えて、住宅や生活利便施設を中心部に呼び戻していくことで、これまで学校や病院を郊外に分散配置したり、上下水道を広域に敷設するといった、行政コストを削減することができます。また、自然の保全やガソリン消費量の削減など地球環境を守る意義もあります。

国はコンパクトな街づくりと中心市街地の活性化のために、平成十八年に「まちづくり三法（都市計画法、大店立地法、中心市街地活性化法）」の改正を行い、郊外開発の規制と地域の取り組みへの支援を行うこととしました。

オリオン通りでは、本校調理科の皆さんも参加した「かんぴょうまつり」やクリスマススマスのライトアップなどさまざまなイベントが開催されています。昨年十一月に開店した「みやカフェ」では、地元の農産物・有名パティシエのスイーツやパンが人気を呼んでいます。今年から「住めば愉快だ宇都宮」をスローガンに市民の顔が写った大きなフラッグも掲げられています。宇都宮餃子会の運営する「来らっせ」では、大谷石の作品や宇都宮のお土産品の展示販売もはじまりました。

宇都宮市は、新たな「中心市街地活性化基本計画」を策定し、大谷石の石蔵を活用した店舗づくりや「自転車のまち」の推進などを検討中です。

味の箱舟計画

話は変わりますが、イタリヤを発祥とする「スローフード運動」では、「味の箱舟計画」という名称で、伝統的な食材を支援する活動をしています。こうした食材を世界共通のガイドラインで選定し、プロモーション活動によって、その生産や消費を守り、地域における「食の多様性」を維持しようというものです。大量生産・大量流通のなかで、世界を包み込もうとする「食の均質化」を「大洪水」に、「未来

の子供たちに残したい味」を「箱舟」にたとえています。

世界で五百以上の貴重な食材が「味の箱舟」に選定されていますが、栃木県では日光の「野口菜（水掛菜）」が選ばれました。これは、日光東照宮造営のため久能山東照宮から来た人によりもたらされたもので、冬場の野菜として、おひたしや浅漬けに用いられるとともに、正月のお雑煮には欠かすことのできないものです。野口菜は、冬期に日光連山のきれいな水を掛け流す必要があるため、湧水地でしか栽培できません。寒くて辛い作業であるため、現在、野口菜を栽培している農家は、僅か五戸のみです。昨年、宇都宮短大ではスローフードとちぎと共同



栃木のかんぴょう祭り



ブランドメッセージを発表する古池宇都宮共和大教授

(宇都宮プライド公式ホームページ「宮カフェ」より)

で野口菜の調理講習会を開催し、しゃぶしゃぶやサラダ、チャーハンなどを作り、多くの方々に野口菜のおいしさを知っていただくことが出来ました。

持続可能な社会のために小さなコスト負担を

ベルモールやインターパークのショッピングセンターは、規模も大きく、いろいろな商品が選べますし、有名ブランドも揃っていて、皆さんには魅力的に映るかもしれませんが、こうした郊外の大規模店ばかりで買い物をしていけば、オリオン通りの店つぶれてしまいます。

安いという理由だけで中国産の野菜ばかり買っていれば、日本の農業がなくなってしまうのと同じ

です。食糧問題などと大きなことは言わずに、野口菜（水掛菜）など地域の誇りとする食材は、皆で生産・消費量を増やして将来にぜひ残したいものです。

若い皆さんにとっては、自動車を運転して郊外の大規模店に行くほうが、便利で効率的です。しかし、将来自分が高齢者になることも考えて、たまたまは自転車や路線バスに乗って中心市街地に行き、小さなお店で対面販売の楽しさも味わってみてはいかがでしょう。少し高くても地元産の安心な野菜を買うことが、本当の意味での農業の保護につながっていくのです。



野口菜のサラダ



(スローフードジャパン ホームページより)

● 副校長略歴

昭和五十二年東京大学を卒業、日本興業銀行（現みずほコーポレート銀行）に勤務。人事部副調査役、産業調査部主任部員、本店営業部・業務部副部長などを歴任し、平成十二年須賀学園に戻る。現在、須賀学園副理事長、宇都宮共和大学学長、宇都宮短期大学学長、同附属中学・高等学校副校長、栃木県私学審議会委員、栃木県産業教育審議会委員、栃木県文化振興審議会会長、宇都宮商工会議所副会長、宇都宮市中心市街地活性化協議会会長などをつとめる。

行政が中心市街地に大きな公共駐車場を作ったり、空き店舗の活用や中心部に移り住む若者に補助金を出す、といったことは重要なことですが、それだけで中心市街地の活性化が図られるわけではありません。

グローバル化の洪水に飲み込まれずに、地域の伝統や文化を箱舟に乗せて、子供たちが将来、誇れるような地域社会を作っていくことは、私たちの使命です。持続可能な地域社会に向けて、市民ひとり一人が、そのために少しずつ小さなコストを負担していく、これが成熟化社会の新たな生き方ではないでしょうか。

特集1

宇都宮共和大学

教育厚生棟が完成！

宇都宮共和大学シティキャンパスは、学生と教職員、さらには市民との交流の場を内外に設けたキャンパスとして、高校の模擬試験や検定試験・公開講座でも幅広く使用されています。特に北側広場では、学生・市民のイベントに開放され、都市のポケット・パークとして、親しまれてきました。

その後、東側隣地に大きな病院が建設され、環境は大きく変化しましたが、今春、校舎の増築工事で透明感のあるガラスの低層部と本館と調和した高層部をもつ教育厚生棟が完成しました。屋上庭園により、三階レベルにも植栽が広がり、既存樹木ともに緑のゾーンが立体的になり、また、大切に保存しているご神木とそれに対面するテラス、ガラス越しに見えるアートなど、いろいろな要素が加わって、昼も夜も美しいアカデミックな広場の誕生です。

建物を建てることによって展開した「都市環境における新しい広場のかたち」を、ぜひ一度ご覧ください。



特集2

生活教養科

伝統の技を未来へ

三月二十五日に原宿クエストホールで開催された「東京コレクション」で、一躍脚光を浴びたデザイナー荒井沙羅氏のプレタポルテライン！その一部に使われたのが、宇都宮で江戸時代に始まった伝統的な染物「宮染め」で、宇都宮共和大学の松本見子先生が、コーディネートをしたものです。

本校の生活教養科では、「服飾手芸」の授業の2年次「染色」で手描き更紗染め・型染め・絞り染めの三種を、また3年次の「課題研究」染色では、「宮染め実習」を専攻していますが、このたび、「地場産業の活性化のために、事業者の協力も仰いで、宮染めを現代風にアレンジして広める」という産学連携の目標のもと、本格的なプロジェクトがスタートしました。

今年の一月から、工場見学、注染体験、ゆかたのデザイン考案、型紙彫り、染めの各工程を経て、ゆかたの制作：



縫製（本校被服室）の段階に入り、七月十八日（土）の「けんちょう」愛ふれあい直売所では、ゆかたを着て「宮染め」製品（中川染工場制作）のPRと販売にも参加しました。今後は、「課題研究」のファッションデザイン選択者によるドレス制作、オリジナル手ぬぐいの小物制作を経て、学校祭での発表・販売・ファッションショー・パネル展示・バザー等と積極的に「宮染め」の販売とPRにつとめてまいります。



「宮染め」浴衣姿の福田富一知事等身大パネルを披露
浴衣を制作した本校生徒たちに囲まれて知事も照れ気味？
（県庁1階ロビー）

特集3

『とちぎ地産地消の日』
『けんちょうの愛ふれあい直売所への出店』

毎月十八日の「とちぎ地産地消の日」に合わせて、栃木県・とちぎ地産地消県民運動実行委員会の共催で栃木県庁舎1F県民ロビーに開設される農産物直売所(愛称・けんちょうの愛ふれあい直売所)は、本校の調理科、生活教養科、情報商業科がそれぞれの学習成果を発表するビッグなステージでもあります。

まず、今年七月には、メインテーマ「夏まつり」をイメージした「宇短附とちぎ元氣ブレッド」を商品開発し販売しました。レシピは本校調理科生徒が考案し、製造は、調理科の卒業生(第二期)である平出正光先生のベーカリーショップ「ブチトマト」が担当。生活教養科の生徒は、自作の「宮染めの浴衣」を着用しての販売促進(試食品の配布)と「宮染めの手拭い」販売を、また、情報商業科の生徒は、PR用チラシとノベルティグッズに「宇短附オリジナル」

「うちわ」の作成を担当しました。また、十月十六日(金)には、本校調理科生徒とファミリーマートの共同企画・開発による「たまり漬けおむすび」(価格は、税込みで一〇〇円)と「栃木県産豚のピリ辛豚焼肉丼」(同、四五〇円)を販売!これらは、いずれも栃木県産の食材を使用した包括業務連携協定に基づく「つぎつぎ商品」の第三弾で、生徒二五〇人から選ばれた商品企画を、本校調理科特別講師の安野耕造先生(茶寮やすの店主)と吹野哲也先生(チャイナガーデン獅子店主)が特別監修したもの!商品は、お父さん世代の健康を気遣い、栃木県産の大麦スカイゴールデンと栃木県産ごぼうを醤油で漬けた「たまり漬け」を、ご飯に混ぜ込んだおむすび。そして、

全国第一位・第二位の生産量を誇る栃木県産のニラもやし、豚肉を使用したピリッと辛い野菜炒めを、栃木県産の



大麦を配合した麦飯にたっぷり乗せた、とてもヘルシーでリーズナブルな焼肉丼です。十一月十二日(木)までの期間限定で、県内約一九店舗のファミリーマート各店でも販売されますので、ぜひ一度ご賞味下さい。

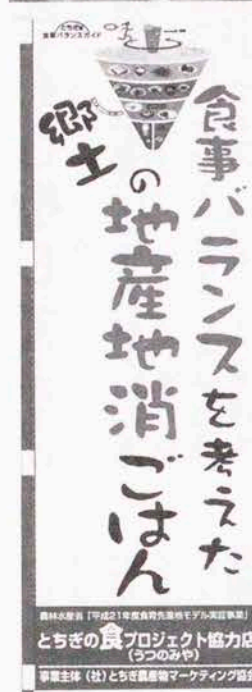
『食育』『地産地消』
広めています!

●かんびよう入りカレーDON

かんびようの食感と、和風のテイストの味付けが絶品の「かんびよう入りカレーDON」が特別メニューとして登場!新しいスタイルのかんびよう井。「地産地消」の野菜たっぷりでごたえあり!ポテトごぼうサラダとミネストローネ付きで、バランスもよし! (提供(株)日本栄養給食協会)



420円
820kcal



農林水産省「平成二十一年度食育先進地モデル実証事業」である「とちぎの食プロジェクト」(事業主体/ (株)とちぎ農産物マーケティング協会)に、須賀学園(高校・短大・共和大)として参加しています。高校では、十月一日、十一月三十日、須賀学園教育会館一階の生徒ホール(高校食堂)で、「食育バランスを考えた郷土の地産地消ごはん」を提供するようになりました。十月は、毎週月曜日(十月五日、十九日、二十六日)に、「かんびよう入りカレーDON」(野菜たっぷり)で、食べ応えがあり、かんびようの食感と和風テイストの「カレー」をお楽しみいただきました。



学園告知板

悠久の時空を越えて 源氏物語千年紀を経て 第43回宇短大祭が華やかに!

今年第四十三回目を迎えた宇都宮短期大学音楽科と人間福祉学科の大学祭が、昨年の十一月十四日(土)と十五日(日)の二日間、にわたり盛大に開催されました。【参照：巻頭グラフ「学園の四季」】須賀友正記念ホールで行われた特別企画「悠久の時空を越えて」源氏物語千年紀を経て「総合プロデュース」本校音楽科の卒業生で、東京藝術大学助教の直井研二先生では、第1部の「文楽と音楽」(宇短大講師の築木純夫先生によるピアノ独奏。東京学芸大学教授の須賀房江先生による解説。東京藝術大学教授の安藤政輝先生・同講師の珠希先生父娘による箏曲の演奏に合わせた)

せた栃木放送・福嶋真理子アナウンサーによる「源氏物語」初音「巻の朗読」と第2部の「争と児童合唱・フルート・テノールの演奏」(鹿沼児童合唱団ボコ・ア・ボコ、宇短大講師の崎谷直・美知恵先生、川久保博史先生が出演)と、典雅な王朝の世界に酔いしれることができました。

また、附属高校音楽科の学内演奏会とオペレッタ「メリーポピンズ」の上演・生活教養科のフアッションショー、高校ブラスバンド部の演奏をはじめ、楽しいピアノ・電子オルガンのレッスン体験やシニア体験等の音楽や福祉に関連する各種体験授業、音楽療法ワークショップ、さらには音楽科教職員・学生による本格的なウエルカム・ピアノコンサートやフルート、ブラスバンドの演奏など、数多くのイベントが盛りだくさんの、晩秋をいろどる絵り多い祭典になりました。

ソフトテニス部の活躍

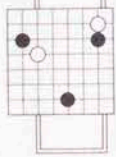
ハイスクールジャパンカップ2009 県大会で、男子ソフトテニス部が 優勝! 全国大会に!

昨年の四月十一日(土)に行われた第三十八回ハイスクール・ジャパンカップソフトテニス2009栃木県代表選考大会におきまして、主将の情報商業科三年・吉永湧紀くん(芳賀中出身)と一年・川俣正太くん(南河内第二出身)のペアが、みごと優勝! 情報商業科三年・鈴木一彌くん(星が丘中出身)と調理科三年・濱崎誠也くん(陽北中出身)のペアも、第三位に入賞しました。

特に、県トップとなった吉永・川俣ペアは、六月二十五日(木)から北海道で開催された全国大会にも出場! 本校男子ソフトテニス部としては、四年連続七回目となる栃木県代表選手枠【推薦】を獲得することができました。

動公園テニスコートで開催された本戦に挑みました。

【囲碁部の活躍】



文部科学大臣杯(県予選) 団体・準優勝で、囲碁部主将が 全国総文祭の県予選主将に!

昨年の五月九日(土)に開催された、第三十三回文部科学大臣杯全国高等学校囲碁選手権大会栃木県大会の団体戦の結果、いずれも普通科国公立特進コース一年の主将・佐藤漢くん(若松原中出身)、副将・大浦望くん(豊郷中出身)、三将・杉本啓文くん(同)の三人が、強豪・宇都宮高校を2対1で降し、みごと準優勝! 主将の佐藤くんは、八月一日(土)から二日(日)にかけて三重県志摩市の阿児アリーナで開催される第三十三回全国高等学校総合文化祭・囲碁部門の都道府県団体戦・栃木県チームの主将に推薦されました。団体戦の対戦チームは、ほとんどが経

インターハイ、全国大会へ!

ソフトテニス女子個人1ペアが準優勝!
ソフトテニス男子個人ペアはBEST8!

昨年の六月十二日(土)から十五日(月)にかけて栃木県総合運動公園テニスコートで行われた平成二十一年度第五十四回全国高等学校総合体育大会(インターハイ)栃木予選会におきまして、本校女子ソフトテニス部の個人1ペア(石川明日香(情報商業科二年)・芳賀中出身)・小川真依(生活教養科二年)・陽北中出身)組が準優勝! 八月九日(日)から奈良県高市郡明日香村にある奈良県立橿原公苑明日香庭球場で開催された全国大会に出場という栄冠を獲得することができました。

一方、六月二十日(土)から二十三日(火)にかけて栃木市総合運動公園テニスコートで行われた男子の部では、慶野真英(情報商業科三年)・小山城南中出身)・伊藤佑将(普通科特進コース二年)・藤原中出身)組と、鍛冶恭彦(情報商業科二年)・若松原中出身)・我妻寛之(普通科応用文理コース二年)・今市

男子ソフトテニス部が、 「トキめき新潟国体」へ出場!

中出身)組の個人2ペアが、ともに第五位で全国大会へ出場! 団体の部でも、第三位に入賞しました。

昨年の九月二十六日(土)から新潟県で開催された平成二十一年度・第六十四回国民体育大会(主催：日本体育協会、通称「トキめき新潟国体」)・秋季大会に出場する栃木県代表選手として、本校の男子ソフトテニス部の選手二名(ソフトテニス少年男子の部)で出場が決定しました。

メンバーは、主将で情報商業科三年の吉永湧紀くん(芳賀中出身)と普通科進学コース二年の赤坂浩史くん(国本中出身)です。

本校ソフトテニス部顧問の成田純先生(国体県代表チーム監督)のご指導のもと、県立真岡高校と栃木工業高校、両中学校の計六名の選抜選手を加えた県最強チームで、九月二十六日(土)から二十八日(月)まで、上越市総合運

験豊富な三年生ばかりという中で、特に激闘を演じた「佐野日大戦」を含む大会の対局の一部は、『下野新聞』にも掲載されました。

県総文祭囲碁大会と 県高校囲碁新人大会で、 栃木県No.1に！

昨年の十一月七日(土)に栃木県教育会館小ホールで行われた第三十一回栃木県高等学校総合文化祭囲碁大会・栃木県高等学校文化連盟囲碁専門部会主催)ならびに第三十三回栃木県高等学校囲碁新人大会(栃木県高等学校囲碁連盟主催)で、ともに普通科国立特進コース一年の佐藤溪くん(若松原中出身)と杉本啓文くん(豊郷中出身)が、強豪・県立宇都宮高校と大田原高校に完勝し、男子団体戦でみごと優勝！さらに主将の佐藤くんは、囲碁五段の実力を発揮して、男子個人戦でも堂々県No.1の栄冠を獲得することができました。

【調理科の活躍】



本校調理科の卒業生が、 ベルギー・ブリュッセルの 「味の外交官」公邸料理人に！

平成十七年の三月に本校調理科を卒業し、その後約四年間にわたり東京・浅草にある「レストラン大宮の大宮勝雄オーナーシェフのもと(昨年の五月までは、JR東京駅前の新丸ビル店)で洋食全般について修業を重ねてきた神山和希さん(鹿沼市立北押原中出身)が、このたび首都ブリュッセルにあるベルギー日本国大使館の公邸料理人(料理長)に選出されました。「公館長の大形なパートナー」とも「味の外交官」とも形容される公邸料理人は、毎日の食膳管理のほか、連日催される各国の王族や世界のVIPをお迎えしての公式パーティーのメニュー作りや各種食材の仕入れからサーブまで、レセプションのすべてをコーディネートします。将来は、ぜひ故郷の栃木県で洋食レ

本校調理科が、 「けんちょうde 愛ふれあい直売所 (栃木県庁内)」に出店！

一昨年の七月から毎月十八日の「どちぎ地産地消の日」に、栃木県・どちぎ地産地消県民運動実行委員会の共催で、県庁内に農産物直売所(愛称「けんちょうde 愛ふれあい直売所」)が開設され、毎月このメインテーマにより季節感を演出しながら、県産の農産物やこれを活用した加工食品の販売を通じて、栃木県農産物の消費拡大と県のイメージアップをはかる事業が展開されています。本校では今年度も、調理科、生活教養科、情報商業科それぞれの学習成果の発表の場として、七月十七日(金)の第一回目をかわきりに、栃木県庁舎1

F県民ロビーで開催されたこのイベントに参加しました。

七月の商品は、メインテーマ「夏まつり」をイメージした「宇短附とちぎ元氣ブレッド」「那須高原・ロイヤルブルーベリークワッサン」「那須高原・ミルクパン」「宇都宮産さつまいも入りパンキンパン」の計三種類です。レシビは本校調理科生徒が考案し、製造は、本校調理科の卒業生(第二期)である平出正光先生のベーカーリーショップ「アチトマト」(製造許可施設)が担当しました。生活教養科の生徒は、自作の「宮楽めの浴衣」を着用しての販売促進(試食品の配布)と「宮楽めの手拭い」販売を、また、情報商業科の生徒は、PR用チラシとノヴェルティグッズの「宇短附オリジナルうらわ」の作成を担当しました。

続く十月十六日(金)には、本校調理科生徒二十五名とファミリーマートとの共同企画・開発による「たまり漬けおむすび」(販売価格は、税込みで100円)と「栃木県産豚のピリ辛豚焼肉丼」(同、450円)を販売！これらは、いずれも栃木県産の食材を使用した包括

業務連携協定に基づく「つぎつぎ商品」の第三弾で、生徒二五〇人から選ばれた商品企画を、本校調理科特別講師の安野耕造先生(茶寮やすの・店主)と吹野哲也先生(チャイナガーデン獅子・店主)が特別監修したものです。商品は、お父さん世代の健康を気遣い、栃木県産の大麦スカイゴールドと栃木県産こぼろを醤油で漬けた「たまり漬け」を、ご飯に混ぜ込んだおむすび。そして、全国第一位・第二位の生産量を誇る栃木県産のニラやもやし、豚肉を使用したピリッと辛い野菜炒めを、栃木県産の大麦を配合した麦飯にたっぷり乗せた、とてもヘルシーでリーズナブルな焼肉丼でした。

さらに、十二月十八日(金)には、「地産地消」に配慮して、本校調理科生徒の皆さんと田村大作先生(本校調理科卒・「洋食」の講師、益子町の Boutique 770店主)が考案したレシビ「栃木県産の鶏卵やリングを使用した手作り地産地消・オーガニックの洋菓子・パン」による4種類のクリスマス・ガトーを販売しました。あわせて、同ロビーでは生活教養科

「創作料理発表会」で、 調理科3年生が最優秀賞を受賞、 全国大会に！

昨年の十二月八日(火)に宇都宮市総合コミュニケーションセンターで行われた平成二十一年度「創作料理発表会」(通称「ファミリーミートクッキングコンテスト」)栃木県大会(主催・栃木県食肉事業協同組合連合会)で調理科三年の荻野成美さん(日光市立大沢中出身)が、みごと第一位の最優秀賞(栃木県知事賞)の栄冠を獲得しました。荻野さんは、今年一月二十三日(土)に東京で開催された全国大会にも挑みました。荻野さんの入賞作品の「豚と野菜のもちっとお茶の水餃子」は、具材の豚肉のプリプリとした食感に加え、レン

コンや笛のシャキシャキ感、馥郁としたお茶の香り漂う手作りの皮のモチモチ感など、いろいろなテイストが一度に楽しめるオリジナル作品！ポリユームたっぷり栄養バランスも最高の、ヘルシーでおいしくいただける一品です。

「地産地消」と「食育」にも配慮し、新鮮で安全な栃木県産品と国産食肉を使った新しい感覚のアイディア料理に、皆さまもぜひ挑戦してみてくださいか？

【音楽科の活躍】



宇短大・高校OG・OBウインドオーケストラが県代表として東関東吹奏楽コンクールへ出場！

昨年の八月九日(日)に開催された第五十一回栃木県吹奏楽コンクール(主催：栃木県吹奏楽連盟・朝日新聞社)の一般部門におきまして、宇都宮短期大学・附属高等学校OG・OBウインド

ブオーケストラが、初参加した昨年度の第二位・銀賞受賞に続き、みごと第一位・金賞を受賞！九月二十日(日)に茨城県の結城市民文化センター「アクロス」で開催された第十五回東関東吹奏楽コンクール(主催：東関東吹奏楽連盟)への出場権を獲得しました。曲目は、課題曲が藤代敏裕・作曲「青空と太陽」、自由曲は樽屋雅徳・作曲の「アトランティス」です。

「奏思奏愛」をモットーとする本楽団は、学園祭や定期演奏会、運動会などの大きな学校行事で短大・高校相互の演奏交流が長く行われてきた中から団結の機運が高まって誕生したもので、本校音楽科講師の田淵哲也先生(本校音楽科・東京藝術大学等)を指導者にお招きし、平成十八年度(二〇〇六年四月)に多くの卒業生にも門戸を開き結成されました。県内外の小・中学校等へ出向いての招待演奏活動も定評が高く、これらの経験と実績・伝統をもとに、顧問の根本英孝先生と指揮者の田淵哲也先生ご指導のもと団員五十八名が心を一つにして最高のハーモニーを奏でて参ります。

皆さまのご声援をどうぞよろしくお願いたします。

【参照：巻頭グラフ学園の四季】

音楽科の2年生が、第2回日本ブルガリア国際音楽コンクールで第3位・ブルガリア音楽賞を受賞！

昨年の十一月十二日(木)から十五日(日)までの計四日間にあたり、東京で開催された第二回日本ブルガリア国際音楽コンクール(日本ブルガリア国際音楽コンクール事務局・ソフィア音楽高等学校・主催、予選はブルガリア共和国大使館ギャラリー、本選は港区高輪区民センターにて開催)のヴァイオリン部門におきまして、音楽科二年の斉藤智子さん(鹿沼市立鹿沼東中出身)が、みごと全国第三位・ブルガリア音楽賞の栄冠を獲得することができました。宇都宮短期大学の星野和夫先生のご指導の下、毎日レッスンに励む斉藤さんの今回の演奏曲目は、予選がブルガリア人作曲家ストラテフ・チエリキンの「Sevdania-Love Song」から、本選

が、ブルッフのヴァイオリン・コンチェルトと宮城道雄作曲「春の海」！斉藤さんの今後ますますのご活躍に期待したいものです。

【その他】

アメリカからロータリー留学生が来校！

国際ロータリーの交換留学生として、昨年の八月二十七日(木)・第二期始業日から約一年間の予定で、ビヤード・デービス・マックスウェル(Beard Davis Maxwell II)くんが本校の普通科第二学年・医歯薬特進クラスに在籍することになりました。ビヤード君は、アメリカ合衆国フロリダ州出身の十八歳。現在在学中のニース高校では、海洋学や物理統計学を専門的に学習。将来は、アメリカ海軍アカデミー(士官学校)に進学して、アメリカ海軍で活躍することを目指す男子高校生です。趣味は野外活動やマラソンな

どのスポーツ全般で、特にテコンドローは黒帯三段の腕前！本校で、楽しくかつ有意義な高校生生活を、ぜひ堪能してください。

高校総体フィギュアスケート女子の部で、普通科1年生が「銀盤の女王」に！

昨年十二月十三日(日)に日光市の今市青少年スポーツセンター・スケートリンクで開催された栃木県高等学校体育連盟・栃木県教育委員会主催・平成二十一年度栃木県高等学校総合体育大会フィギュアスケート女子の部におきまして、普通科国公立特進コース一年の鈴木伶奈さん(日光市立日光東中出身)が、中学一・二年次の選手権連覇に引き続き、みごと初優勝！難易度の高い得意のスピンやステップで、「銀盤の女王」の座を射止めることができました。



【生活教養科の活躍】

全国きものデザインコンクールで、生活教養科3年生が3年連続入賞！

昨年の七月に京都府の京都芸術センターで開催された第十三回全国きものデザインコンクール(主催：全国染織連合会・きものデザインコンクール開催委員会、後援：経済産業省ほか)の全国大会・ジュニアの部において、生活教養科三年の黒川真希さん(宇短大附属中出身)が、みごと伝統的工芸品産業振興賞受賞の栄冠に輝きました。型友禪で伝統的な着物を大量生産するために行われる一般的な公算デザインコンテストではなく、自分が着たい着物を自分の趣向・感性・色彩表現でデザインするというこのコンテストには、今回全国から三九九一点の作品が出展されましたが、本校生徒の作品は、平成十九年度から二年連続の全国第二位・京都府知事賞に続く上位入賞であり、その他に佳作が三点、入賞は十四点という快挙！とくに十月二十

四日(土)に、元離宮・京都二条城の二の丸御殿台所にて表彰された黒川さんの作品は、錦秋の京の都を彩る「紅葉と満月」をCGでデザインしたもので、本誌の表紙にも掲載されています。黒川さんの伝統と前衛の織り成すデザインを、もう一度ご覧ください。



黒川さんにインタビュー

私は、この京都きものコンクールの「紅葉と満月」のコンセプトとして、京都のイメージの中でも特に自分にとっての西陣織や和服、和風といった「和」の雰囲気を中心に据えてみました。

また、冬の夜空の「黒」、満月の「黄色」、紅葉の「赤」といった、配色を考えてデザインしました。

平成22年度 全国高等学校家庭科技術検定の合格状況

1級合格者		三冠王	四冠王
被服制作(和服)	90	79	24
被服制作(洋服)	87		
食物調理	99		
保育	27		

本校では、検定に積極的に取り組み、栃木県はもちろん、全国においてもトップの成績を挙げています。また、卒業後は高校で身に付けた技術を生かし、さまざまな専門分野で活躍しています。



教育実習生、母校の教壇に

公民科

教育実習を終えて

茨城大学 奥村 真衣子

三週間の教育実習を終えて、私は今、大変充実した気持ちで満たされています。教育実習が始まる前までは不安でいっぱい、私に三週間乗り切ることができたらどうかと悩んだときもありました。しかし、教育実習一日目を迎え、様々な先生方の講義を聴いたり、授業を参観したり、ホームルームで生徒と関わったりする中で、私の教育実習に対する不安は吹き飛び、学校へ出勤することが楽しく感じられるようになりました。

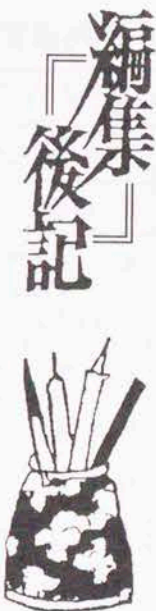
授業の参観では、多くの先生方の教授法を学ぶことができ、大変勉強になりました。導入の仕方、発問の内容やタイミング、生徒を引き付ける技術、板書のまとめ方、声量の調節、授業全体のメリハリ等、授業を作り上げていく上で熟考すべき点がたくさんあることを学びました。また、先生方は、教科書では扱っていない内容も盛り込み、生徒の理解を深めるとともに、生徒の興味を掻き立てる工夫が随所に感じられ、常に様々なことにアンテナを張っていないといけないことを痛感しました。

授業実習では、教材研究の大切さを痛感しました。自分自身が百のことを知っていなければ、生徒に1のことすら教えられないということに身にしみて感じました。また、教材研究には終わりがなく、生徒の探究心や向上心を高められる教材の開発のために、常に教材研究をし続けることの必要性を感じました。

教壇実習が始まり、研究授業の時まで課題となったのが、声の大きさでした。教材研究不足から生じる自信のな

さや不安から、また大きな声を出すことに抵抗があったことにより、充分な声量で授業を行うことができませんでした。授業を重ねるごとに大きな声を出すように努め、少し改善はされましたが、合格ラインには達していないと自分でも反省しています。また、自分の伝えたいことを生徒に伝えることの難しさを痛感しました。教科書の内容をいかに分かりやすく噛み砕き、生徒が理解しやすい言葉で伝えるか、ということの重要性を考えさせられました。教壇実習では、上手くできずにつらい思いをすることが多かったのですが、一方で、生徒が「楽しかった」と言ってくれたり、興味を持って聞いてくれる姿を見たりして、大変嬉しい気持ちになりました。

研究授業では、課題となっていた声の大きさ、生徒に活動させる時間を与えること、メリハリを付け重要事項を強調することは、今までの教壇実習に比べると改善はされましたが、まだ十分だと反省しています。「現代社会」では、現在の社会状況と関連づけて授



本学園の創立二〇周年に当たる、記念すべき二〇一〇年(平成二十二年)というこの年に、伝統ある生徒会誌『ひめまつ』第六十四号を皆さまにお届けできることを、私たち編集委員一同、心より光栄に思っております。

まず、巻頭の須賀淳校長先生の随想と須賀英之副校長先生の論説からは、長い歴史と伝統をもつ私たちの学園が、新しい時代の到来とともに今後なお一層充実発展し、目覚ましい躍進を続けていくであろうことが、先生方の気概や熱意とともに感じ取れるはずで。

そして、巻頭グラフでは、昨秋中・高合同で行われた須賀学園創立一〇九周年記念学校祭のようすを、また特集記事では、第四十三回宇短大祭のもよう、本校運動部の活躍を中心にお伝えできたと思います。附属中コーナー、宇都宮共和大学・宇都宮短期大学(人間福祉学科)コーナーの他にも読書感想文やHR紹介等読み応えのある作品が多く、皆さまからお寄せいただいた写真やイラストも大いに誌面を飾ってくださいました。

私たちが携ったこの『ひめまつ』は、戦後間もない一九

四七年(昭和二十二年)三月に創刊されました。(創刊号の写真が巻頭にあります)その長い歴史と伝統を踏まえ、さらに本学園の「語り部」として、百年、二百年の礎になるのかと思うと、多くの皆さまにぜひ隔から隔まで読んでいただき、一世紀余かわらぬ本学園の「全人教育」の今日の姿を共有したい、という心持がより強く湧いてまいります。

最後になりましたが、一年間にわたり懇切なご指導をいただきました編集委員会顧問の水沼智恵・鈴木順也の各先生方に、心からお礼申し上げます。(編集委員長・大谷梨香子) ありがとうございます。

「ひめまつ」第六十四号(非売品)
平成二十二年三月一日 印刷・発行

宇都宮短期大学附属高等学校
編著者 編集委員会顧問 萩原俊和
発行者 生徒会長 仲田涼介
印刷所 宇都宮市鶴田町一三五九の一
ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社
〇二八(六四八)一一二
印刷者 山本征一郎
発行所 宇都宮短期大学附属高等学校
栃木県宇都宮市睦町一番二十五号
〒320-8585
TEL 〇二八(六三四)四一六一(三番)
FAX 〇二八(六三三)三五四〇
ホームページ <http://www.uun-jh.ed.jp>
メールアドレス info@uun-jh.ed.jp

◆◆ 校史と校章 ◆◆

須賀学園は、昨年11月3日で創立109周年の記念日を迎えましたが、平成19年の11月には、宇都宮短期大学の開学40周年を記念した式典や演奏会、短大祭が開催され、グランドオープンして4年目となる須賀学園教育会館・第2グランドとともに、本学園の教育実践の全容を広く内外に示すことになりました。

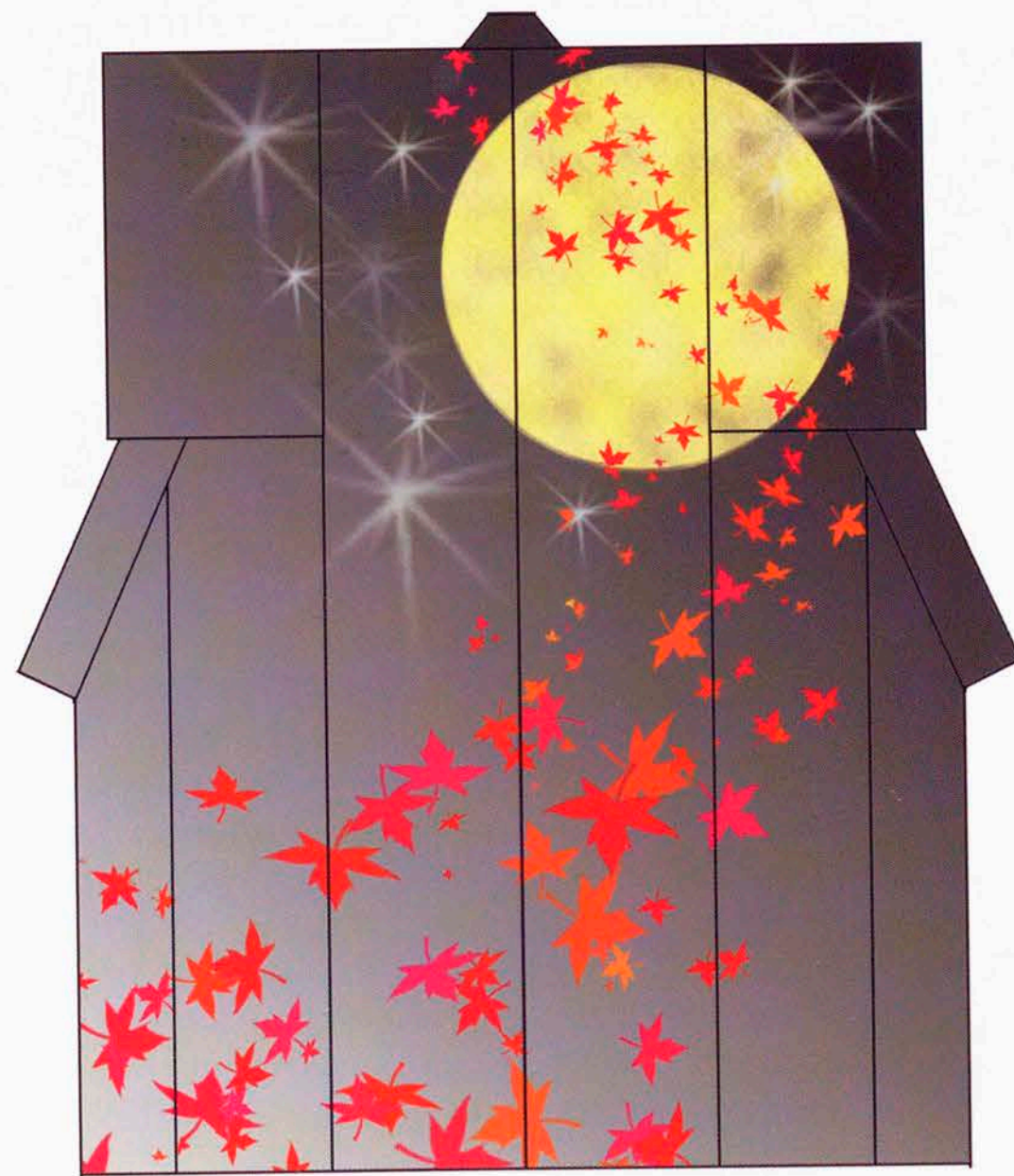
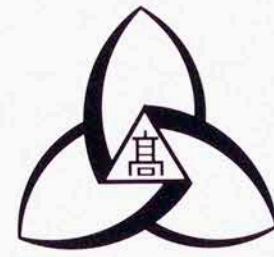
思えば、本学園は、明治33年(1900年)に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女学校、大正13年宇都宮須賀女学校、昭和7年宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女学校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学(音楽科)を新設し、現在の宇都宮短期大学附属高等学校と改名されました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代現校長の須賀淳先生です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校(中・高6か年一貫教育)を併設され、那須大学(現・宇都宮共和大学)開学、短大の学科増設、須賀学園教育会館および第2グランドの新設と、ますます学園を発展させ現在に至っています。

本校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉(本誌の巻頭を参照)の意味は、本校生徒の一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるというものです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育」の精神が、100余年かわらずに脈々と生きついでいます。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありましたが、現在の校章(本誌の表紙を参照)は、カタカナの「ス」の文字を3個組み合わせる図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。(合印とは、いわば目印のようなもので、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その腕につけさせ、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。)これは、須賀家の家系譜から第2代校長の須賀友正先生が校章と定められたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしており、いかにも清純な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に、創立60周年記念事業の一環として制定されました。

★裏表紙のCGデザイン画は、生活教養科3年生の黒川真希さんの作品です。詳しい解説は、本誌「学園告知板」p.157をご覧ください。



「第13回全国きものデザインコンクール」全国大会・ジュニアの部で、
伝統的工芸品産業振興賞を受賞した作品
《宇都宮短期大学附属高等学校 生活教養科3年生 黒川真希さんのデザイン》